

# 杭ノ瀬支部で 青年部大会ひらく

杭ノ瀬支部青年部定期大会を3月17日、杭ノ瀬文化会館でひらき、21人の高校生・青年が結集した。

はじめに、保井隆伸・事務局から司会のあいさつがあつた。全員で解放歌を合唱し、坂田利季弥さんから水戸宣言の朗読があつた。

主催者を代表して、岸田貴裕・青年部長は、大会をひらいていかなかったことの謝罪とこれからの運動の発展に青年部に結集する多くの仲間と活動していくことへのべられた。つぎに、松井資喜・県連青年部長、藤本哲史・支部長、辻岡龍閣・書記長から来賓あいさつがあつた。

## 青年が先頭をたつて

### 那賀支部 青年部大会

那賀支部青年部第29回定期大会を5月2日、紀の川市那賀町総合センターでひらかれ、約10人の青年が結集した。

主催者を代表して、那賀支部の井端尚司・青年部長から「昨年12月に部落差別解消推進法が制定され、部落差別は「社会悪」であることが再確認された。今後、国及び地方公共団体において、部落差別撤廃にむけた協力なとりくみが必要となり、差別のない明るい社会づくりを構築していかねばならないと力強くあいさつした。来賓に松井資



ともに闘うことを誓う  
岸田青年部長

い進してほしいと激励の言葉があつた。

清水亜耶・副部長から2016年度の活動報告があり、角野加奈・同部長から2017年度の活動方針（案）が提案され、司会から新役員が報告された。最後に差別裁判うちくださうと団結ガンバローを岸田部長の発声で大会を終えた。



あいさつする井端尚司青年部長

## 今後の日程

### (6月)

- 2 第2回中央生活福祉運動部会議 (大阪)
- 4 第62回県連大会 (プラザホープ)
- 9 反差別国際運動第29回総会 (東京)
- 12 第1回男女平等社会実現をめざす学習会 (大阪)
- 15 部落解放・人権研究所定時 (第6回) 総会 (大阪)
- 16 第3回中央執行委員会 (大阪)
- 17 西光万吉顕彰会第4回総会 (井阪文化会館)
- 20 全国人権保育研究集会第1回企画運営会議 (鹿児島市)
- 22~23 部落解放・人権西日本夏期講座 (宮崎市)
- 23 狭山ビラ統一行動
- 24 被爆72周年非核・平和行進
- 25 県環境生活部との話し合い (ビッグ愛)
- 26 「全国部落調査」復刻版出版事件第5回口頭弁論 (東京)
- 26~27 和歌山の部落史編纂会・高野山文書編纂会総会ならびに研修会 (高野山)

### (7月)

- 2 県連解放学校

### ◆各支部大会

- 16 新宮支部女性部
- 21 本渡
- 24 田辺 湯浅支部女性部
- 29 那賀支部女性部

## 差別の事例を検証せず

### 調査委員会

第2回和歌山市差別解消調整委員会を3月29日、勤労者総合センターでひらかれ、33人のうち、25人が参加した。

はじめに、川端秀行・和歌山市福祉事務所所長から「障害者差別解消法の施行にともない、和歌山市手話言語条例を整備した。まだまだ啓発できていないが、これまでとりくんできた事業報告と新しい事業について提案していくなかで、活発な意見をお願いしたい」とあいさつがあつた。

つぎに、古井克憲・議長

喜・県連青年部長から「昨年12月に部落差別解消法が施行された。この法律ははじめて部落差別という文言が記された。この法律には、罰則規定や被害者救済等の規定はないが、差別撤廃に向け条例等で規制していくことが必要。青年が先頭に立つてまい進しよう」とあいさつした。

2016年度活動報告、2017年度活動方針、大会スローガンの確認をおこない、最後に、団結がんばろうで終了し、宮本修作・県連書記長から法律の学習会おこなった。

から委員会の成立が報告され、議事にうつった。和歌山市から、前回の委員会で、歌坂憲彦・委員から提案された当事者のくりについて、国の表記と同様に「当事者」と「家族等」と変更することが報告された。議題1の和歌山市のとりくみで、相談事例について、6件の報告があつた。車いす対応低床バ

スが運航する時間を時刻表に記載すること、和歌浦ベイマラソンの車いすの参加を安全面を考慮し検討すること、障害者外出支援事業の公衆浴場の回数券をもつた当事者が入浴を断られた件で、かなりの泥酔状態であったので酔客と判断したこと、マイナンバーの点字表記について、長音符（二）が表記されないため、公共団体情報システム機構へ報告・改善を要望したこと、和歌山市電話交換の対応について、言語障害のある当事者の聞き取りができず、来庁することになった。庁内の研修等はすすんでいるのか、福祉にかかわる団体が多く入居するビッグ愛の案内所で、言語障害のある当事者の話に「申し訳ありません。おっしゃっていることがよくわかりません」と対応したことが報告された。各相談については、担当課で対応し、諮問するにいたっていない。

また、庁内アンケートで、手話言語条例を知っているかの問いに、管理職の「知っ

## 障害者部会 ひろく

第2回障害者部会を3月17日、県連事務所をひらき、平見良太・部長、宮本修作・副部長、辻岡龍閣・執行委員、松井資喜・同委員、橋本和弘・部員、歌坂憲彦・同員、事務局2人が参加した。

和歌山県職員対応要領の

策定状況について、JR和歌山駅の切符の購入について、ビッグ愛職員の対応について、これまでの経過が報告され、議題にうつった。

和歌山県障害者差別解消地域支援協議会について、実態調査について、和歌山市役所での電話対応について、和歌山市障害者差別解消調整委員会について、あ

議した。なかでも、和歌山県障害者差別解消地域支援協議会の協議会構成団体について、部落の障害者の声を集約して協議会に反映させる隣保館などの参加がないことにかんして、再度県と協議することが確認された。また、次回の県連大会で障害者部会の強化をめざすため、支部から推せんをあげてもらう。

## 支局からの お知らせ



お気軽にお電話を!

和歌山支局では、各支部でのとりくみを積極的に紹介していきたいと思えます。支部活動や子ども会活動など、支局までお知らせいただければ、取材に走ります。もちろん、投稿記事も大歓迎！ 写真を添えて支局までお送り下さい。(発送先) 〒640-08314 和歌山市神前405-3 部落解放同盟県連合会内 解放新聞和歌山支局宛

「割合が16%とかなり低いなど、庁内での啓発がすすんでいない状況を委員が指摘した。

新規事業として、手話施策について、点字文書作成についてスカイプなどを活用した「どこでも電話サービス」などが導入予定であり、少しづつ合理的配慮がすすんでいくことが確認された。関係機関からの報告で、歌坂委員から「調整委員会の役割は、差別の事例をひとつひとつ解決すること。今回の事例を考えると、当事者部会、専門部会などを設置して協議することとは、障害者差別解消にむけ効果的ではないか」と意見がだされ、今後の検討課題となった。